

今回、私たちはABK日本語学校の学生として、東京ビッグサイトで行われたSDGsのエコプロ展示会を見学しました。これは私たちにとって、とても特別で、予想以上に印象に残る体験でした。出発する前は、「SDGs」について具体的な知識があまりなく、頭に浮かぶのは省エネや地球を守ろうといった決まりきった環境スローガンばかりでした。このような展示会は宣伝のようなものが多く、内容もまじめで退屈で、自分の生活とは遠い存在だと思っていました。また、実際にどのような影響があるのかもよく分からず、正直に言うと「見てもすぐ忘れてしまうのではないか」という先入観と少し不安で、あまり行きたい気持ちではありませんでした。

しかし、実際に会場に入ると、その考えはすぐ変わりました。学校が企画してくれた見学を通して、この展示会にはとても多くの具体的で充実した内容があることに気づきました。会場には大企業だけでなく、多くの中小企業やスタートアップ企業も参加しており、それぞれのブースでは、持続可能な社会という考え方をどのように商品開発や技術研究、会社の運営に取り入れているのかが紹介されていました。展示はポスターやスローガンだけではなく、体験型のコーナーや実物展示、分かりやすい説明などがあり、難しくて抽象的だと思っていたテーマが身近に感じられるようになりました。特に、学校から「インタビューの課題」を与えられていたため、事前に調べ学習をし、会場では自分たちから質問して記録を取る必要がありました。この過程によって、ただ見るだけの見学ではなく、疑問を持ちながら考え、観察する姿勢が身についたと思います。スタッフの方との会話を通して、持続可能なアイデアが生まれてから実際に形になるまでには、資金、技術、人材、時間など多くの困難があることも知りました。しかし、企業や団体の努力とあきらめない気持ちがあるからこそ、理想が少しずつ現実になっていくのだと理解できました。

今回の見学を通して、SDGsは遠い未来の大きな目標ではなく、私たちの日常生活に取り入れることができ、行動の選択にも影響を与える大切なテーマだと強く感じました。教室を出て実際の社会とつながるこのような授業形式は、教科書の言葉をただの知識ではなく、具体的な経験として理解させてくれます。これは学生である私たちにとって非常に意味のあることだと思います。視野が広がっただけでなく、自分から社会問題について考え、観察する力も養うことができました。私たちは、このように理論と実地見学を組み合わせた学習方法は、教室で話を聞くだけよりも深く印象に残り、将来の社会や自分の役割について考えるきっかけにもなる、とても価値があり大切にしたい学習経験だと思います。